

**都心臨海部・インナーハーバー整備構想  
(骨子案)**

**平成21年6月  
横浜市**



## 都心臨海部・インナーハーバー整備構想（骨子案）の策定にあたって

横浜は、1859年の開港以来、港とともに発展し2009年6月に開港150周年という大きな節目を迎えました。これは、次の50年を見据えて、新たなステージに向けた大きな一歩を踏み出していく絶好の機会ととらえています。

そこで、この節目の年を契機とし、横浜の過去のまちづくりを振り返りながら、未来を展望するとともに、長年のまちづくりにより都市の骨格が形成されてきた都心臨海部・インナーハーバーを横浜の象徴としてとらえ、新たなビジョンを策定し、それを広く国内外に発信していくこととしました。

横浜港は、貿易の中心として、また文化の中心として、日本経済を支え、市民のアイデンティティの確立に寄与してきました。この都心臨海部・インナーハーバーは、将来にわたり、さまざまな機能が複合した魅力あふれる質の高い空間に再生していくことが重要となっています。

この構想は、50年後にはこんなヨコハマにしたいという大きな夢を描くものであり、正に将来の青写真となるものです。今回、「基本理念」や「都市構造」などの基本的な考え方を「都心臨海部・インナーハーバー整備構想（骨子案）」としてとりまとめました。

今後はこの骨子案をもとに、構想の具体化に向けて取り組んでまいります。皆様のさらなる御支援と御協力をよろしくお願いいたします。

平成21年6月

横浜市長 中田 宏

## 目 次

1	構想検討の進め方	1
2	横浜の都市づくりの取組	3
3	50年後の都市像（イメージ）	5
4	構想の基本的な考え方	6
5	構想実現にあたっての主な課題	8

# 1 構想検討の進め方

## 1-1 構想のねらい

- ・ 都心臨海部・インナーハーバーは、1859年の開港以来、長年のまちづくりにより都市の骨格が形成されるとともに、個別の拠点開発が進められてきましたが、都市の魅力向上や賑わい創出、都市空間としての一体性や連続性、スケール感などについては、将来にわたり強化充実していく必要があります。
- ・ また、都心臨海部・インナーハーバーは、広大で静穏度の高い内水面を抱えています。これは他の都市には見られない大きな特徴となっています。
- ・ おおむね50年後を見据えたこの構想では、この水面を都市空間再生の資源としてとらえ、最大限に活用することにより、国内はもとより世界的に見ても質の高い空間の形成を図るとともに、市民の一人ひとりがこの地域に対し愛着を感じ、かつ誇りに思うような都市づくりを目指していきます。

## 1-2 検討のアプローチ

構想検討にあたっては、以下の両面からアプローチすることとしました。

① 現状把握のうえ問題点を抽出し、解決する施策を体系的に組み立てた計画とする方法

② 50年後の理想の姿を想定し、そこへの到達に向け、今後なすべきことを計画する方法

このため、過去のまちづくりの経過を振り返り、現状を認識し、課題解決に向けた取組を洗い出すとともに、一方では、これまでの慣習や既成概念などにとらわれることなく理想の姿を検討しました。

### 1-3 対象地域

おおむね横浜ベイブリッジの内側でJR京浜東北線・根岸線の海側の地域としました。

- ・横浜港は、明治～大正～昭和期にかけて埋立により港を拡張し、発展させてきましたが、みなとみらい21地区、ヨコハマポートサイド地区などでは、再開発により港湾機能から都市機能への転換が進んでおり、既に新たな都心を形成しています。
- ・この地域は、約1,200haの貴重な水面を有しており、整備構想を検討するうえで、重要な要素になっています。

以上のことから、この水面を取り囲み、かつ都市の広がりとしてある程度の厚みを持たせた地域を整備構想の検討対象としました。



#### 対象エリア（現況）

面積：全体 約3,200ha

陸域 約2,000ha

水域 約1,200ha

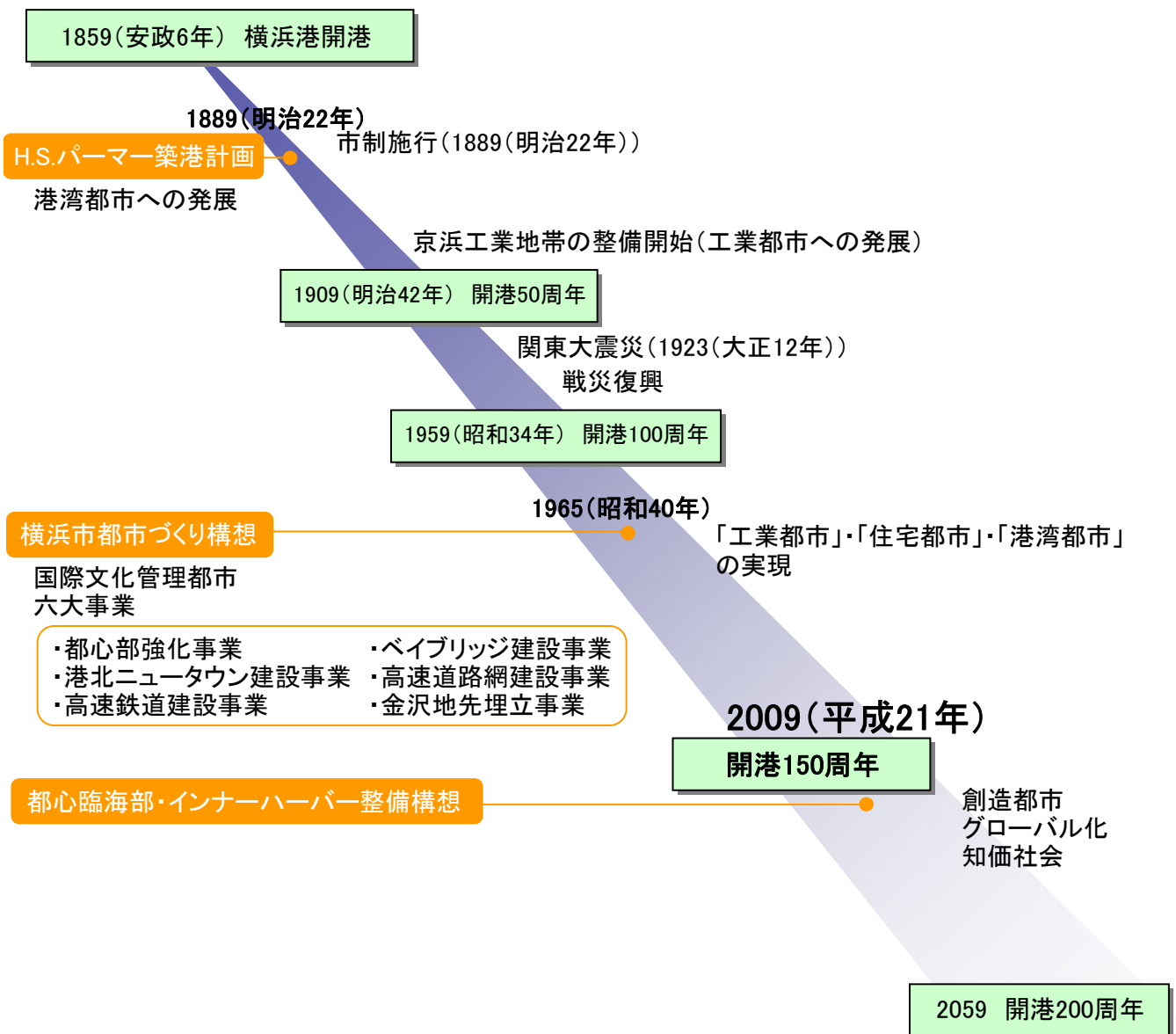
人口：約11万人（平成17年国勢調査）

従業者数：約36万人（平成18年事業所・企業統計）

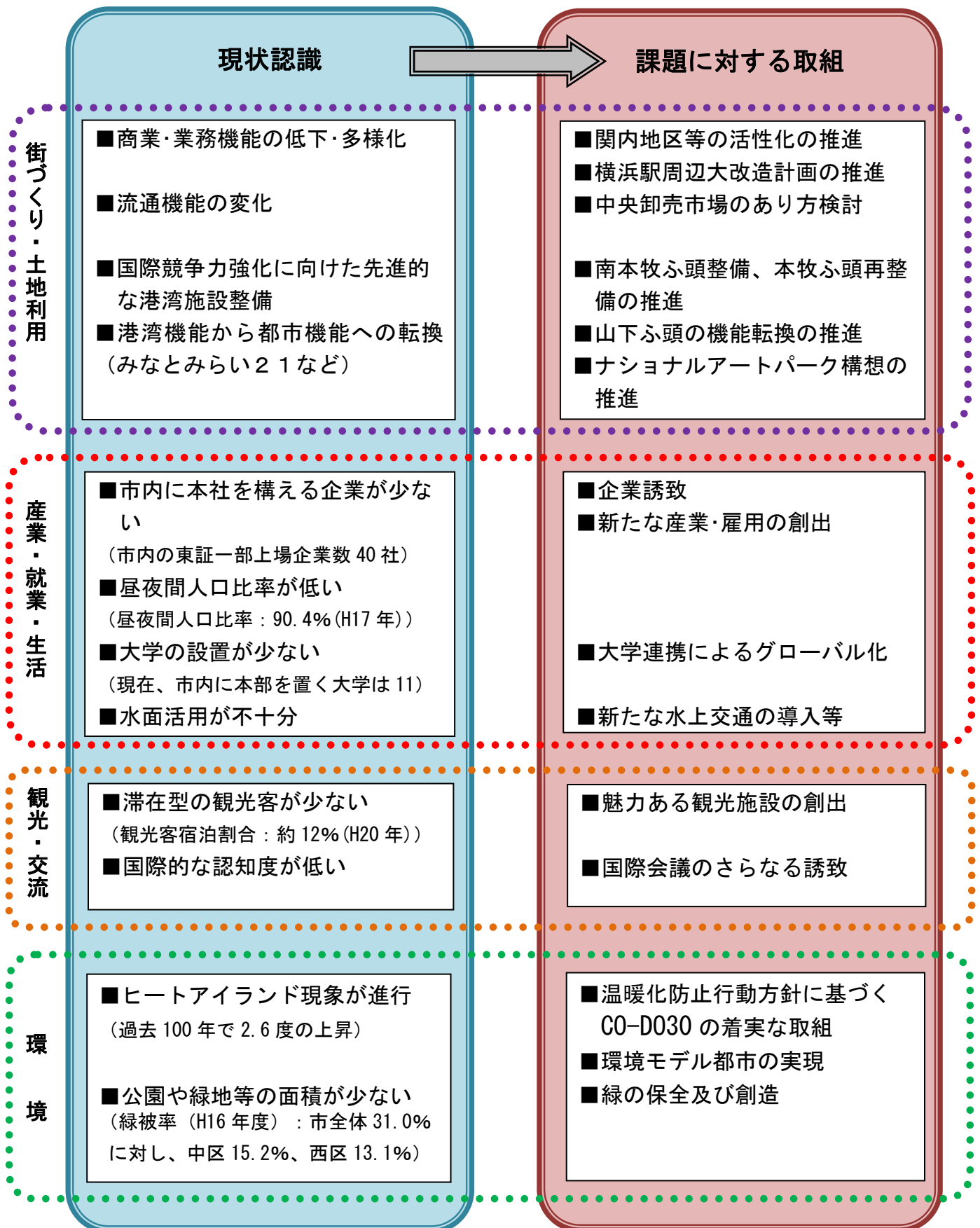
## 2 横浜の都市づくりの取組

### 2-1 都市構想の変遷

横浜は、国内外に開かれた、我が国の産業・文化を牽引する大都市として歩んできました。これまでに、大さん橋に代表される港湾整備期（1890年代）、関東大震災からの復興都市計画（1920年代）、六大事業（1960年代）など、時代の流れにあわせて都市の機能、魅力などを高める様々な戦略を打ち出し、実行してきました。



## 2-2 地域の現状認識と課題に対する取組



### 3 50年後の都市像（イメージ）

新たなハード整備に加え、既存ストックの活用や自然との調和などを図ることにより、都市空間を再生し、都市としての質を高め、かつ厚みを増しています。また、多様な人が都市を舞台に活動し、市民の一人ひとりが真の豊かさを実感しています。

#### 持続可能な空間

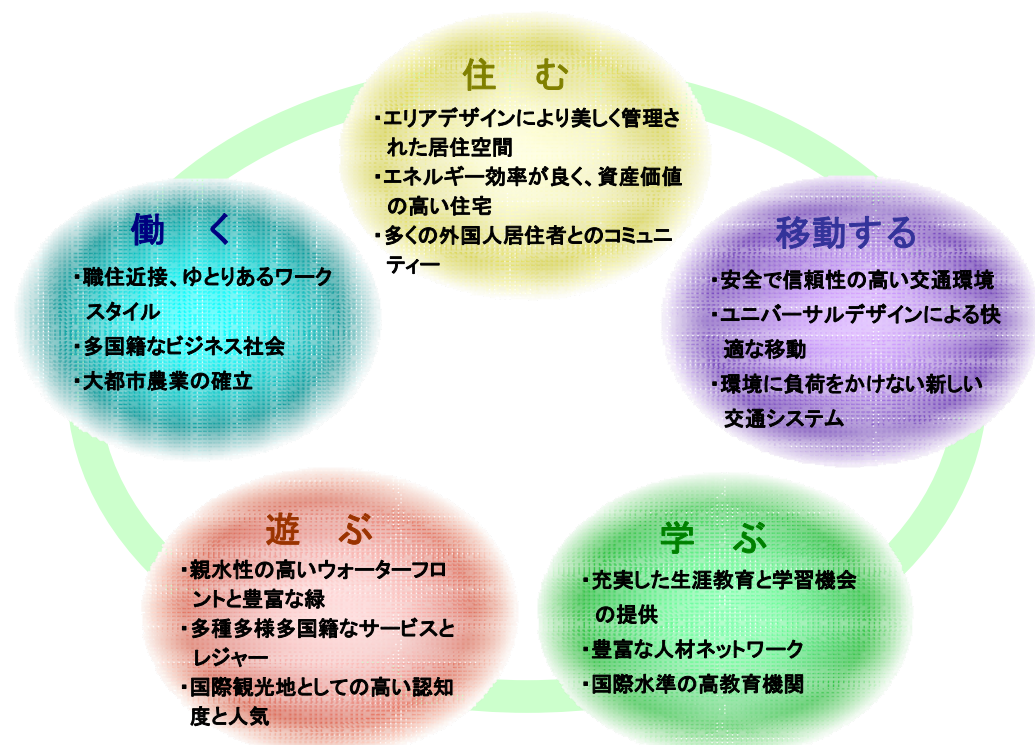
- ・ 経済と環境が共存し、双方の対等なる持続を重視
- ・ 新たなハード整備から既存ストックの有効活用への転換

#### 新たな都市文化を創造する空間

- ・ 創造都市横浜のさらなる展開
- ・ 新たな国際交流及び国際定住
- ・ 大学の連携及びグローバル化

#### 魅力あるデザインされた空間

- ・ 歴史的建造物など地域の資源を活かした都市観光
- ・ 豊かな緑と水辺空間の創出



## 4 構想の基本的な考え方

### 4-1 基本理念

人材と文化が活きる<sup>うみ みやこ</sup>海の都

東アジア圏の<sup>じんぶん</sup>人文首都へ

- ・ 創造産業や先端産業、ものづくりの継承、国際観光や国際交流などに人材を活用していきます。
- ・ 横浜の遺産や風景を保存・活用するとともに、世界に誇れる新たな先端文化の育成と国際的な文化芸術を創造していきます。
- ・ 個人が尊重され、市民が豊かさや安心を実感できる社会としてきます。市民相互の絆を強め、新しいコミュニティを形成していきます。
- ・ 多様な個人の存在を受け入れる開かれた社会づくりとともに、市民組織や地域社会への分権を進展していきます。

### 4-2 基本目標

#### 多様な人が暮らす生活

- ・ 水辺での居住
- ・ コミュニティの再生

#### 働き学び交流する活動

- ・ 人材を支える大学の交流
- ・ 相乗効果を発揮する高度複合社会

水面を囲む

#### 豊かな生活を支える環境

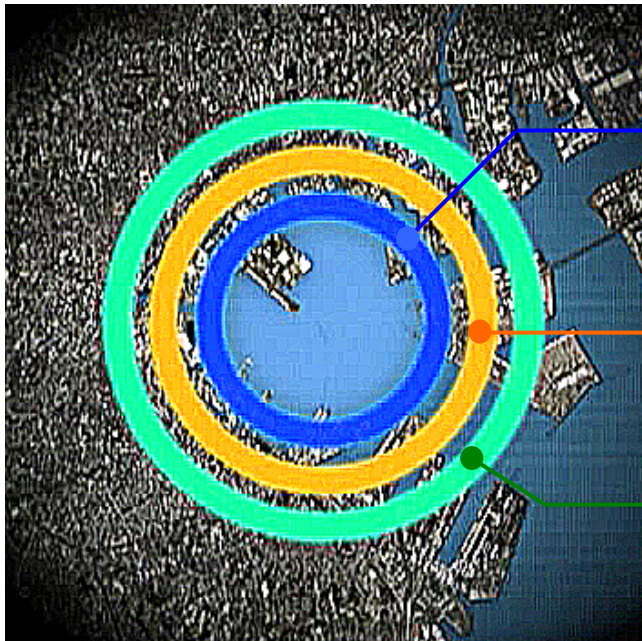
- ・ 低炭素社会をつくるエネルギー循環
- ・ 環境を保全する水と緑の連続

#### 自由な活動を支える移動

- ・ 水上交通及び新たな交通手段
- ・ 既存公共交通機関との連絡強化

### 4-3 新しい都市構造（マルチリング・シティ横浜）

水面を囲む地域は、それぞれの地区で核となる活動や機能、施設を有しながら、全体に緩やかに広がり、それぞれをリング状に結んでいきます。



**インナーリング**（水際の生活を支える新たな交通手段）

水面を活かした、水上交通の整備、沿岸部を手軽に移動するための新たな交通手段の導入など。

**アウターリング**（地域間の公共交通を再編）

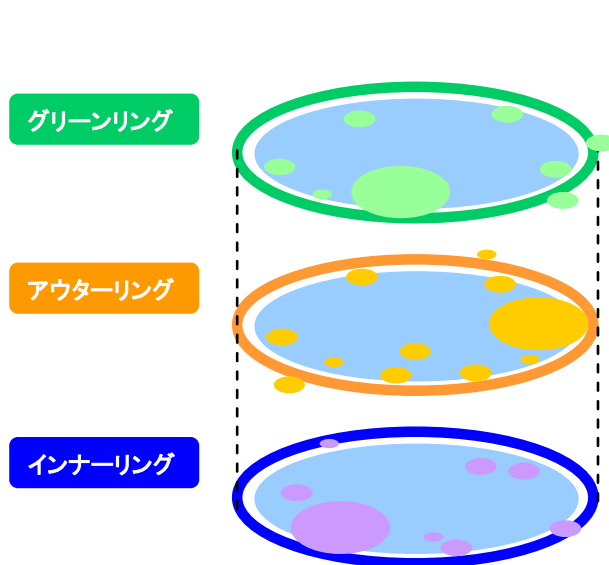
リング構造を活かした、既存交通の再編、循環型のエネルギーシステムなど。

**グリーンリング**（環境を保全する水と緑の連携）

豊かな緑地の整備と囲い込む水面を活かした環境共生モデル。

### 4-4 多層都市の構成

各地区では、移動や環境などの視点からシナリオを描き、さまざまな活動や機能が複合した多層都市を構成していきます。



多層都市のイメージ



## 5 構想実現にあたっての主な課題

### 1 港湾機能との調整

インナーハーバーでは、物流、生産などの港湾機能が集積しているため、それら機能の取扱いについて検討していきます。

### 2 構想づくりへの市民参加

市民の意識を高めるとともに、構想検討にあたっては、適宜、市民の意見を聴取し構想に反映していきます。

### 3 関係機関などとの合意形成

構想について国及び関係業界と合意形成を図っていきます。

### 4 米軍施設の返還に向けた取組

早期の返還に向け関係機関に働きかけていきます。

## ※今後の進め方 <参考>

検討委員会や、横浜市と大学連携による共同検討体制を設置し、骨子案をもとに適宜市民の意見を聴きながら具体的な検討を進めていきます。検討結果については、年度内を目途に長期的なビジョン案（計画の方向性）として取りまとめていきます。

横 浜 市  
港 湾 局 企 画 調 整 課  
TEL: 045-671-7300  
都 市 整 備 局 都 市 デ ザ イ ン 室  
TEL: 045-671-2009  
平 成 21 年 6 月 作 成

